

紫西会報

第 52 号

発行所
茨城県筑西市下中山590
茨城県立下館第一高等学校
紫西同窓会
(編集兼発行責任者 中原孝朋)
TEL (0296) 24-6344(代)
FAX (0296) 25-4673
印刷所 戸 頃 印刷 所

「創立百周年 筑西支部設立」

紫西同窓会長 林 廣 明
(第四十一回卒)



早いものです。令和4年の春の訪れを感じる季節になりました。
そして、来年、令和5年(2023年)は母校下館第一高等学校の創立百周年の記念すべき年を迎えます。
さて、下館紫西同窓会は百周年記念事業の一部として、母校下館一高の運動場に夜間照明装置(LED照明11基)

を設置する事業を計画致しました。
既存の運動場夜間照明装置が老朽化し、撤去処分されたので生徒の教育活動、特に日没後の部活動に大きな支障をきたしているとのことでした。
偉いことに夜間照明装置は令和3年9月に完成しましたので、生徒は伸び伸びと部

活動に励んでいるとのことでした。

昨年11月、日本でのコロナ感染者が激減し、県内においては感染者が0の日も何日か報告されましたが、年末になるとオミクロン株による感染者が確認されました。

このような状況の中で、創立百周年事業の一環として「下館紫西同窓会筑西支部」の設立が計画され、登録会員を募りましたところ、四百数名の登録があり、また、筑西市役所支部においても百六十数名の登録がありました。そこで、令和4年2月13日(日)に下館一高紫西同窓会館において「下館紫西同窓会筑西支部」の設立総会が開催される運びとなりました。

まだまだコロナ禍の感染が心配な状況ではありますが、母校下館一高創立百周年記念事業に向けて、関係者皆様のご支援ご助力を頂き、準備を進めたいと思っております。
さて、私事ですが、ある日、私の友人から老夫婦のAさんの相続について相談に乗って欲しいとの依頼がありましたので、私は老婦人Aさんを訪

ねましたところ、居宅は昭和初期に建てられたと思われる平屋建ての借家でした。

私は、どのような相談だろうかと老婦人Aさんに面会しますと、老婦人Aさんは子どもに恵まれず、夫を亡くし独り暮らしをしているとのこと、私に亡夫の遺産の手続きを依頼したいとのことでした。

そこで、私は亡夫の遺産を調査したところ、亡夫が残した多額の遺産に驚きました。これ程の遺産(預金)があれば老朽化した借家住まいをせず、住宅を新築し、贅沢な生活が十分可能であったと思われたからです。

しかし、Aさん夫婦はそのような生活を望みませんでした。

Aさん夫婦の立場になってAさん夫婦の老後を考えますと、Aさん夫婦が住居を新築しても、その住居を受け継ぐ後継者がおりません。また、Aさん夫婦の老後は誰が身の回りの世話をするのでしょうか。介護施設に入所するには、その入所費用も用意しなければなりません。何れ訪れる老後の不安に、Aさん夫婦が最

も頼りにしたのは、結局預金であったと思われる。

それでは、子どもに恵まれた夫婦の養育費はどうでしょうか。

子供一人を幼稚園から大学まで教育するには教育費だけで約一千数百万円が必要とされ、子供が2人、3人ですとその2倍、3倍の教育費を負担しなければなりません。両親は苦しい家計の中から歯を食いしばって教育費を捻出し、私達子供を教育してくれたのです。

今になって、しみじみと両親のお金の苦労が分かる年齢になり、両親への感謝の気持ちで胸がいっぱいです。

最後になりますが、昨年の紫西会報で十数年前に家族が経営する会社が倒産する等の苦境に遭った中学生B君が「法律家になって困った人を助けたい。」と決意して司法試験に挑戦する話を紹介しましたが、令和3年1月、B君は司法試験に見事合格し、新たな目標に向かって第一歩を踏み出したことを皆様に報告致します。

以上

校長挨拶

校長 赤田部 清浩



紫西同窓会会員の皆様には、日頃から本校教育の発展のために、物心両面にわたるご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

コロナ禍と言われる期間が令和4年になり3年目に入りました。私自身赴任して2年目を終えようとしておりますが、同じ時期に入學した高校2年生、中学3年生とともに、学校においては2年間ずっとマスクを外せない生活が続い

ました。時期によっては実施できた行事もあればできなかった行事もあります。また、変更を強いられた行事もありました。例えば海外修学旅行は国内に変更し、七曜祭や館力祭(体育行事)は生徒会が中心になって創意工夫をして実施することができました。進学校の生徒は、勉強だけでも大変ですが、部活動、学校行事にも全力を尽くす生徒が数多くいることを頼もしく思います。

さらには、学校の本分である学びの保障を最優先で考えなければなりません。

今年度の県立高校入学生から全員がタブレットを購入するという県の方針があり、購入する以上充実した活用ができるようにと、アプリの選定や活用方法などを他校に先駆け検討を始めました。本校が県内においてはICT教育の先進的な学校であると自負しております。例えば、休校中には体育、美術、音楽、家庭科の実技系教科を含めて、時間割通りの6時間授業をリモートで実施することができました。リモート授業での理解度や定着率といった課題もあり

ますが、現状のICTの優れているところは、個人面談も朝・帰りのSDRもリモートでできてしまうということです。また、授業においてもグループワークを行う際には、各グループの意見の集約などもモニターに映しながら迅速に行え、様々な異なる意見も効率よく把握できるといった面もあります。このように、コロナ禍において唯一のメリットがあるとするなら、教育現場におけるICT活用が飛躍的に進んだことが挙げられます。とはいえ、教育の本質は教師と生徒の対面でのやり取りです。オンライン授業や面談の良さは認識しながらも、その根底には、教師と生徒と相互理解であり信頼関係が存在する必要があります。ウィスコロナ、ポストコロナにおける学びの保障は、ICT活用と対面授業の良さを取り入れながらのハイブリッド型ということになるのではないのでしょうか。

次に、100周年記念事業に向けて触れたいと思います。一つ目は学校の施設設備面においてです。老朽化によって、グラウンドの照明が撤去

されることになりました。県では定時制のない学校には新設は考えていないということでした。グラウンドで行う運動部活動、そして安全に帰宅する生徒たちのために是非設置しなければならぬと考え、同窓会にお願いしたところ、記念事業の一環として快諾していただきました。学校も大切に使用していきたいと思っております。紙面を借りまして厚く御礼申し上げます。二つ目は、記念誌編纂上のお願いです。が、水害により昭和50年代の資料が散逸して非常に少ない状況です。もし、当時の文書や写真などをお持ちの方は、校内の100周年記念事務局にご連絡下さると幸いです。また、100周年とは直接関係ありませんが、同窓生には思い深い、昭和43年に建てられた体育館が現在大規模改修事中(建て替えではない)です。工期は1年を要すると聞いておりますが、100周年記念式典には間に合いそうですので、その際には真新しい体育館で皆様をお迎えすることになると思えます。

最後に、コロナ禍と体育館が使用できないため、今後当

分全校生が一堂に会した取組や活動は行えませんが、長き歳月を経て培われてきた本校の伝統、気風、そして文化をこういう状況でどう次代に継承していけばよいかが学校として受け止めなければならぬ課題です。これまで以上に同窓会を中心としたネットワークからのお力添えを頂ければ幸いです。同窓会の皆様方には今後ともより一層のご支援を頂きますようお願いいたします。



改修工事中の
体育館の様子

新任の先生よりメッセージ

下館一高附属中学校教頭

谷島 敏浩



(第六十四回卒)

下館一高は我が母校で、この校舎で私は青春時代を過ごしました。そんな母校での勤務は、自分にとって想定外の異動だったので、異動が決まった時は喜びでいっぱいでした。赴任したばかりは校舎も体育館も当時のままだったといふこともあり、見るもの見るものが懐かしく、当時の思い出が蘇ってきました。幸せの一言です。

報 会 西 紫

私の担当することになった下館一高附属中学校は、令和二年に開校したばかりの学校で、まだ決まっていらないことやこれから作らなければならぬ組織などが数多くあります。附属中の生徒は、個性豊

かな方のある生徒ばかりで、そんな生徒たちと一緒に新しいものを作りあげていることに、日々喜びを感じながら学校生活を送っています。

下館一高に赴任して間もなく一年になろうとしています。下館一高で勤務できる喜びを忘れず、精一杯頑張っていきます。どうぞよろしくお願いたします。

下館一高に赴任して

酒井 哲



私は数学の授業を担当しています。新聞等の記事によると、産業界をはじめとする各方面で、数学の知識等をもつた人材、いわゆる「理数系人材」への期待が急速に高まっていると言われています。

授業では、教科書や問題集に載っているような問題を解くことが要求されますが、問題を解くだけではなく、現在習っている数学がどのような場面でのように使われているか、そして、いかに活用するかということも話をしていければと思っています。

若さあふれる高校生の皆さんや経験豊富な先生方から刺激を受けて自分自身も成長していきたいと思っております。よろしくお願いたします。

下館一高に赴任して

大塚 毅



早いもので、四月に下館第一高等学校に赴任して9カ月

が経とうとしています。当初は、創立百周年を迎えようとする伝統校の一員となることに期待と不安を抱いておりましたが、現在は不安もなく、とても充実した日々を過ごすことが出来ています。その一因が館一の素直さとひたむきさなのです。

正直なところ英語に不安を抱えている生徒は少なくありません。しかし、彼らはこちらの伝えることに素直に耳を傾け、そして必死についてこようとしてくれます。その姿は、私に初心を思い出させてくれました。彼らの可能性を信じ、共に成長し、その期待に応えていくことのできる教員でなければならぬという思いが強くなりました。

拙筆になりましたが、改めて、伝統ある下館第一高等学校及び附属中学校の更なる発展の一助となるよう尽力していきたいと思っております。



「順番」

日向 岳王



(第七十六回卒)

私は、館一のOBです。今まで、多くの人との出会いが私を育ててくれました。その中で、特にお世話になった館一の先輩が二人います。この二人は、私を山登りに連れて行ってくれます。二人は、山登りに必要な道具を教え、一緒に山を登ってくれました。1つ登ると、次々と高い山に連れて行ってくれました。高い山からの景色は格別です。この景色は、登った人しか分かりません。二人は、日々の生活でも私の知らない景色を見せてくれました。

私は皆さんに高校生活という山の登り方を伝えたいと考えています。今覚えると、今後あの時あれだけの山を登れたのだから、大体の山を登れると思えるようになると思います。

次、皆さんを山登りに連れて行くのは私の「順番」だと思っています。一緒に、見たことのない景色を見にいきませんか？私の登り方が全員に合っているとは思いません。その時は、自分にあう登り方を知る先生を探してみてください。みなさんにその「順番」が来たときに伝えられるように今がその時です。

下館一高に赴任して

長沢 孝



「当たり前前の良識取り戻せ」最近、久しぶりに電車で乗った時のこと、恥ずかしくて下を向いてしまった。

目の前のシルバースーツに明らかに七十歳過ぎの女性がいた。突然立ち上がるや、反対側に立っていたより高齢と思われる女性を連れて来て席を譲ったのだ。シートには、二人よりはるかに若い男女が座り、この光景をただ見てい

自分がかしでかしたので
はない。それでも「恥」を感
じた。

悪貨が良貨を駆逐してい
る。貨幣の事ではない。法律
でも規則でもない。大自然の
掟とも言えるべき良識のこと。
この人間本来のあるべき姿が
己の欲望優先の身勝手さに席
捲されている。

電車内や雑踏で、すれ違
いざま転ばんばかりにぶつから
れても「失礼」の一言もない。
荷物がイヤというほどけられ、
足を踏まれてもそらだ。
他人の心情を無視、監視し
ても、なんの会釈もない。こん
な腹立たしいことはない。人
の存在・意思、つまり人権が
軽んじられるから腹が立つ、
人権尊重とは、被害回復や権
利擁護ばかりを言うのではない。
い。雑踏にもまれながらも
互いを認め合い、とつすべ
かを考えることが基本だ。

ついぶつかるのは仕方がな
い。だから相手に一声かけ
る。同じように行動しても高
齢者、障害者にはハンデがあ
る。だから互いに意識する。
そんな「当たり前」を取り戻
さなければならぬ。欲がは

ひこる社会にだけはしたくな
い。しないで欲しいと心から
君たちに願うばかりです。

下館一高に赴任して

古谷 英雄



していたのを覚えています。
家から一番近い高校（車で1
0分かかりません）であり、
妹や多くの友人が在学してお
り、七曜祭にも友情出演し
たこともあるくらいです。そ
んな近くの高校なのに、今回
が初めての勤務となりました。
た。やっと地元の下館一高で
教員生活の締めくくりを迎え
ることができるとを幸せに感
じています。

「下館一高に赴任して」

齋藤 喜博



る脈々としたものを感じてい
ます。私は今年度、三年生の
日本史と二年生理系の世界史
を担当しています。今年もま
たコロナの影響を受けてしま
いましたが、いち早く下館一
高ではそれぞれの先生方が創
意工夫して対応しました。私
も慣れないICTに戸惑いな
がらリモート授業をしました
が、結果、これからはICT
機器を活用しながら生徒自身
が主体的に授業に参加してい
くのだなあとということに改め
て感じました。同時に学びの
質が問われる昨今、教員自身
も変化し、多様化していくの
だと思っています。

下館一高に赴任して

榮永 純子



今年度、坂東総合高校より
下館第一高へ異動してまいり
ました。前任校は、岩井高校
と統合することにより生徒数
が少なかったこともあり、下

下館一高・附属中に赴任して 竹江 信之



今年度、下館一高・附属中
に赴任しました。

今年度は、事務員として主
に、施設の修繕、物品の購入
等の仕事を手がけています。
下館一高は長い歴史のある
伝統校ですが、その反面、校
舎等の老朽が進んでおります
ので、予算の許す限り必要箇
所から改修していければと考
えております。少しでも生徒
さんが安全で快適な学校生活
を送れるように、陰ながらサ
ポートしていきたいと思っ
ております。

どうぞよろしくお願いいた
します。



昨年度に新設された附属中
には新しい可能性、また、創
立九十七年を迎える下館一高
には伝統の重みを感じていま
す。
二つの異なった学校に少し
でも貢献できるよう力を尽く

していきたくて思っていますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

下館一高・附属中に赴任して

藤田 宏美



四月に赴任し、あっという間に一年が経とうとしています。前任校に十年間勤務していましたが、赴任当初は環境の変化や初めての中学校での勤務ということに戸惑い、緊張する日々でした。そんななか、離任式で校歌を聴いたときに懐かしさを感じたことを覚えています。おそらく、下館一高の卒業生である兄が恒常的に（？）校歌を歌っていたおかげではないかと思ひます。このような縁のある下館一高・附属中学校に勤務することができていることを嬉しく思ひます。

報 西 紫

授業中の生徒たちの熱心な姿には、こちらまで全力で心えねばという責任の重みを感じ

じ、よい刺激になっています。授業で生徒と接するのも楽しみです。もう一つ楽しみがあります。それは放課後の清掃の時間です。本館階段の清掃監督をしていると、その時間にかんがりの人数の生徒たちが目の前を通っていきます。そこで生徒たちと交わす挨拶はほんの一瞬、一言ではあっても毎日そこから力をもらっているように感じ、心温まるひとときとなっています。

下館一高・附属中に赴任して

鳩貝 翔太



市内の下館西中学校より赴任して参りました。この学校に赴任しまもなく一年が経とうとしています。前任校で教えていた生徒も多く、こうして再会できたこと、また高校での成長や活躍を間近で見ることができていることも嬉しいことです。人との縁を強く感じた一年目でした。

附属中学校では、出会って初日から生徒たちがICT機器を使いこなしている様子にとて驚いたことを今でも覚えています。素直で何事にも一生懸命取り組める生徒が多く、毎日充実した生活を送っています。学級担任として、この三年間で多くのこと

学び、胸を張って高校へ進学してもらえようとしていきたいと考えています。またその中で、勉強や部活動での学びはもちろんですが、人として大切なことも同時に伝えていけたらと思います。こうして附属中学校1・2期生の生徒たちに関われることに感謝の気持ちを忘れず、学校のため、生徒のために自分のもっている最大限の力を尽くしていこうと思います。

また、未熟で至らない点もあるかと思いますが、生徒とも成長していけるよう頑張ります。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



下館一高・附属中に赴任して

穴澤 奏未



昨年は下館一高に勤務しており、今年から下館一高附属中に異動致しました。初めての中学生の指導にはとても緊張しておりましたが、早くも一年目が終わろうとしています。入学したばかりの頃はクラスに同じ小学校出身の友達が多く、緊張感が張り詰めていた教室も、今は生徒の元気な声であふれています。

私は数学の授業を担当しております。下館一高附属中では先取り学習を実施したり、習熟度別授業を行ったりと、確かな学力を育成するための授業を実践しています。「算数」から「数学」に名前が変わっただけではなく、内容がとて難しくなったという声を生徒から多く聞きます。しかし、わからないからと言って投げ出す生徒はいません。積極的に学び向き合う生徒

たちの姿勢にとても感心させられます。

生徒ひとりひとりの夢の実現のために、これからも尽力して参りたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

下館一高に赴任して

宮山 朋子



今年度下館一高・附属中学校に異動して一年が経とうとしています。不安と緊張をもちながら出勤した日々を思い出します。

事務の仕事は、生徒の皆さんと直接関わりはありませんが、廊下ですれ違つと元気よく挨拶をしてくれます。その声を聞いて私も元気をもらっています。また、自身の学生時代のことを思い出します。新型コロナウイルス過で生活が変化していますが、生徒の皆さんには「今」を大切に、充実した学生生活をおくってもらいたいと思います。下館

一高という伝統のある学校と皆様方と関われたことに感謝をしています。これからもうを宜しくお願ひ致します。

下館一高に赴任して

笹島 大地



教員生活一年目を伝統ある下館一高にて勤務することができ、大変うれしく思います。初めての教員生活で出会う生徒たちのことは、生涯忘れがたい存在になることを確信し、日々全力で向き合っています。館一生涯は部活動加入率が非常に高く、七曜祭などの行事では執行部を中心とした生徒主体となった行事運営ができる生き生きとした生徒が多いことにいつも感銘を受けています。行事等の楽しいこと・やりがいのあることは能動的に動ける館一生涯ですが、勉強については多少受け身であることも感じております。私が高校生だったころを

報 西 紫

振り返ると、偉そうに言える立場ではありません。しかしその結果どうなったのかを、生徒たちに話をしていきます。以下に担当している4クラスで初回の授業時に話したことを紹介します。

―私は、失敗ばかりの学校生活であった。中学生の時は塾に通うも、21時から33時ごろまで自習という名目でおしゃべりをするだけの毎日だった。おかげで高校受験は失敗、私立高校へ進学。生徒会長になり行事運営の楽しさに明け暮れるも、勉強は最低限の課題をこなすだけ。当然、大学受験も失敗。通った大学は、模試の志望校欄で5番目に書いていた大学であった。5番目って、書く大学がなく迷う欄ではないのか？と思

ったがそれが現実だった。行く意味が分からず、辞めようと思えたことは数えきれない。幸い、高校でも大学でもかけがえのない親友に出会うことができた。後悔は全くしていないが、「とりあえず言われたことだけや」とけば良い」というのは間違いで、もっと頑張れたよなと思うことは多々ある。結果論でいえ

ばハッピーエンドかもしれないが、失敗した後のショックと無気力を打開できるかどうかはその人次第で、脱落していった同級生も多々見てきた。叶う夢なら叶う方がいいに決まっている。だから第一志望に向けて毎日意味のある生活を送るようにした方がいいよ。―

受験はあくまで通過点です。本校教員の中で生徒と一番年齢に近い？人間の失敗体験談として、頑張ってみようと思える生徒を一人でも多く増やし、全力でサポートできるように努力していく所存です。

下館一高・附属中に赴任して

小野瀬 昇



附属中に赴任して間もなく一年が経とうとしております。故郷の茨城ではあります。公立学校という新天地での勤務に加え、久しぶりの中

学生担当ということで戸惑うことも多く、あつという間の一年だったように思います。今年はGIGAスクール元年でした。世を襲ったコロナ禍の中で、オンライン授業やリモート出勤など、皮肉にも学校のICT化が進んだように思います。「禍福は糾（あざむ）える縄の如し」二鶏（たに）れば通す」と申します。ピンチを乗りこえたいと思っております。ICT機器の取り扱い方の上達ぶりでも感じましたが、授業や生活の中での附属中生の発想力の高さや吸収力のよさ、そして積極性には驚かされるばかりです。ぜひ生徒たちの個性と特長を、上手に引き出し、伸ばしていきたいと思っております。また、長年の私立の中高一貫校勤務で得た経験を、附属中の発展に活かしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○ 附属中学校 表彰関係

【第1学年】

令和3年度茨城県統計グラフコンクール 茨城県統計協会総裁賞

飯村文音 飯村梨史 深谷虹夏

第20回りんり俳句大賞・2学期の部 銅賞

石井 亮成

第60回全国俳句大会「ジュニアの部」佳作

飯村文音 茂呂智文

【第2学年】

小林一茶第20回全国小学生俳句大会 特選

富田にて

第20回りんり俳句大賞・1学期の部銀賞

佐野智哉

2学期の部銅賞

鈴木風音

第60回全国俳句大会「ジュニアの部」入選

今井花菜

佳作

小針和真

全国感動作文コンクール 優秀賞

谷田優太

佳作

安田心優

第23回虚子・こもろ全国俳句大会中学の部

特選

谷田優太

佳作

上野夏萌

萩原愛花

第23回虚子・こもろ全国俳句大会中学の部 学校賞（全国1位）

進路指導の現状

学習進路部長 谷 中 藤 雄

【2年目の新型コロナ対応】

新型コロナウイルスの感染拡大は、社会の構造自体をも変化させ、学校教育にも大きな影響を及ぼしました。このような過去に例を見ない状況下で、本校では生徒たちの学びに様々な制約が生じる中、学びの質を確保するための努力をしてまいりました。

昨年度（令和2年度）は、4月の始業時期から5月下旬まで休校、2週間の分散登校期間を経て6月2週目よりやっと通常の授業が開始されました。この長期間の休校期間中は教員にとっても生徒にとっても初めての経験で、「戸惑い・不安の中、自宅学習する生徒に対応するためICT機器を活用したオンライン授業・授業動画配信を利用しての学習

となりました。また、担任の先生は、双方方向のオンラインホームルームや個人面談を実施し、生徒の状況把握に努めました。本校では、従来の電子黒板を利用した授業などICT機器の活用は、盛んではありましたが、このときの休校期間によるICT活用が進歩いたしました。

そして今年度、8月下旬から9月下旬まで2度目の新型コロナウイルスによる休校期間。この期間に計画されていた、課外授業、到達度テスト、模擬テストは中止や延期を余儀なくされました。授業はオンラインとなりましたが、前年度の経験を生かし、前回よりも質の高い授業が展開され、生徒も対応してくれました。しかし、生徒が登校し教

室で学ぶというのが本来の高校の姿です。従来の対面授業に戻ってからは、授業進度の遅れや理解度のばらつきに対して各教科で対策がなされました。

2年生にとっても、進学意識を高めるきっかけの一つであったのですが、不完全燃焼のような状態でした。

令和3年度は、昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大に大きな影響を受けた一年になりました。そんな中、従来の進路指導の形に、ICT機器を活用した新しい指導の方法を融合させる移行期間にもなりました。大学入試も、大学進学希望者数が大学の入学定員を下回る大学全入時代となりました。生徒の将来に繋がる進路選択となること、進路指導の最も大切なポイントだと思います。今後は、様々な進路指導の行事を通じて、正しい情報伝達と将来を見据えたモチベーションアップを図ること、そして、より多くの個別面談により生徒一人一人に適した緻密な進路指導を実践し、それぞれの将来に繋がる進路実現を叶える学校でありたいと思う。

また、進路決定の重要な情報源である大学主催のオープンキャンパスもコロナ禍で大きな影響を受けました。今年度は、Webでの開催へと切り替えた大学が多く、オープンキャンパスでの体験・体感を通じて自分に合う大学かどうかを決める生徒が多いことを鑑みると、その経験ができなかったことは、出願を検討するための情報不足につながったと思います。さらには、入学後もアンマッチ感を抱き、ひいては中退につながるリスクも懸念されます。1.

【コロナ禍における大学入学共通テスト】
1月15日・16日の両日、本校3年生254名が筑波大学会場で第2回の共通テストを受験しました。昨年に引き続きコロナ禍の中、感染対策を施しながらの受験となりました。学校からの借り上げバスで受験に向かう生徒については、3学年担当の教員が引率しましたが、感染予防の観点から会場に付添人控室が設けられていないため、生徒の会場入りを見届けた後は学校に戻り待機、試験の終了時刻に合わせて帰りの引率に向かうという対応をしました。

2回目となる今回の共通テストは、数学ⅠAのほか、化学、生物、生物基礎、日本史Bなどがセンター試験を含めて過去最低の平均点になるなど、第1回の昨年と比較して難化しました。数学ⅠAの平均点は37.96点で、昨年より約20点減となり、大学入試センター試験を含めてこ

報 会 西

れまで最も低かった2010年の48.96点を大幅に下回り、過去最低点になりました。数学ⅡBの平均点は43.06点で、センター試験時代を含めて3番目に低い結果でした。受験者が1万人以上の科目ではほかに、化学(47.63点)、生物(48.81点)、生物基礎(23.90)、日本史B(52.81点)で、平均点が過去最低になり、国語(110.26点)も昨年より平均点が下がりました。一方、世界史B、現代社会、化学基礎、地学基礎、英語のリーディング、リスニングなどは平均点が上がりました。データネットでは、多くの国立大の受験に必要な文系5教科平均点を508点(昨年より44点低下)、理系の5教科平均点を513点(昨年より59点低下)と予想しています。

大きく難化した共通テストに対して、本校生もその影響を受けました。全国平均と比

各学年の現状

一学年概況

一学年主任 市村 太一

早いもので令和三年度も残り三ヶ月となりました。昨年度同様、新型コロナウイルスの感染拡大により様々な行動制限をしいられる中で生活となりましたが、生徒達は中学時より発展的な授業や高度な技術を要する運動に熱心に取り組んでいます。茨城県では今年度の一年生より、一人一台タブレットの所持を推奨し、ICT教育の推進を図ることとなりました。それに伴い本校でもネットワーク環境の整備や教員研修を進めており、授業はもちろん家庭学習においても有効活用できる態勢が整いつつあり、生徒達の学習効果を高める一助となっています。また部活動にも多くの生徒が所属し、県大会での入賞、関東大会出場という好成績を収めています。

私自身、年度当初を振り返ってみると、入学前に学校を訪れた生徒が、これから始まる高校生活への期待感いっぱい表情で私に挨拶をしてくれたことがまず思い出されます。この生徒達を大事にしていきたい。それが初めての学年主任を決意した理由でした。

スナージ発表など全てが初めての経験でしたが、仲間と協力し見事にやり遂げることができました。隔年で行われる行事ですが、私が毎回思うのは、生徒達が最後の片付けを一生懸命行うということです。周りの状況を見ながら自然な流れの中で役割分担し、限られた時間の中で見事に教室等を復元していくのです。その姿を見るたびに私は、素晴らしい学校、生徒達の中で働かせていただいていることを実感します。十二月には劇団四季の「オペラ座の怪人」を鑑賞し、年度末には結城市のアクロス小ホールをお借りし、附属生徒と合同の合唱コンクールを予定しています。合唱については、本校体育館が改修中ということもあり、今年度初めてホールでの実施を企画し、現在、準備を進めているところです。

二学年概況

二学年主任 廣岡 大介

入学以来、新型コロナウイルスの感染拡大防止策のために様々な制約を受けてきた二年生ですが、その中でも一人一人が勉強に、部活に、学校行事にエネルギーを注ぎ、少しずつですが、たくましく頼もしく、そして、館一生らしくなってきたと感じています。振り返りますと、一般公開はなくなった六月の七曜祭ですが、各組が創意工夫を凝らしたクラスパフォーマンス(ダンスや劇)やクラス企画の展示・発表をしていました。生徒達が真剣に準備に取り組み、二日間を心から楽しそうに過ごしていたのが印象的でした。その後、夏休みを経て、新型コロナウイルス

三 学 年 概 況

の感染拡大に伴い、九月からオンライン授業が始まりました。グループクラスルームやズームを用いたホームルームや授業、授業動画や課題の配信と回収など学校のICT化がさらに進んで生徒も教員も情報リテラシーが短期間で一気に高まったように感じました。

二年生最大の行事である修学旅行は、三月にマレーシア海外旅行の中止を決定してから十月の長崎・福岡修学旅行の延期を経て、実施そのものが危ぶまりましたが、十二月末にやっと実施することができました。最初に訪れた長崎の平和公園では、平和祈念像の前で生徒達が気持ちを込めて折った千羽鶴を手向け、黙祷を捧げ、語り部による当時の話を聞き原爆の恐ろしさを改めて知りました。二日目は生徒達が自らテーマを設定して企画したオリジナルコースを班別に巡る研修を行いました。路面電車を乗り継ぎなが

ら、グラバー邸、大浦天主堂めがね橋、中華街、稲佐山等の市内の様々な観光地や史跡を訪れ思い思いに楽しんだようです。三日目は組毎に事前

三 学 年 在 海 老 澤 淳 子

に計画したコースを巡るクラス別研修を行いました。ハウステンボス、軍艦島、柳川下り、阿蘇山等、長崎・福岡・熊本の名所旧跡や観光地を仲間と訪れ思い出深い一日となったようです。最終日は見事に修復された熊本城を全員で訪れ、その堂々とした美しい佇まいに圧倒されました。保護者の皆様や旅行代理店のご協力で三泊四日の全行程を無事に終えることができました。ありがとうございました。さていよいよ最終学年が近づいて参りました。受験生セ

試験から共通テストまで約2年目、出題の傾向が掴みにくい中での受験となります。未だコロナ禍、オミクロン株の感染拡大が広がるのが懸念される不安を感じながらも受験となりそうです。進路が決まった生徒も含めて、生徒達は目標に向かって一生懸命勉強しています。今年度は、すべての行事でコロナ感染予防対策最優先して行われました。一般公開無しで行われた七曜祭では、ス

まいりました。夏休みから継続しての休校は、3年生にとっては精神的にとっても辛いものだったと思います。夏休みに500時間の学習という目標を立て、その成果を試すはずの9月が、自宅でのリモート学習となってしまうのです。いつもなら一緒に一喜一憂しているはずのクラスメイトのいない授業、できないのは自分だけなのではないか、勉強したことに意味はあったのか焦りや孤独を感じた感じとこででしょう。実感を得られず、孤独感を強めていった人もいたと思います。今年度で一番苦しく不安な時期だったと思います。

十月十九日、学年だけのクラスマッチを行いました。競技は、ドッジボール、玉入れ、リレーの3種目で、午前中は授業を行い、午後だけの開催でした。準備期間が短かったにもかかわらず、クラスごとにはちまきを作成し、執行部や生徒会の生徒の協力もあり、どの競技も大いに盛り上がり、これまでの鬱憤を全部はじき飛ばすようなパワーを感じました。

進路状況 1/29 現在 国立公立大 (4名) - 筑波大学 1名 - 茨城大学 2名 - 水産大学校 1名 私立大学 (46名) - 亜細亜大学 1名 - 茨城キリスト教大学 2名 - 大妻女子大学 1名 専門学校 (2名) - 宇都宮ビジネス電子専門学校 1名 - 東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校 1名	明治薬科大学 1名 獨協医科大学 1名 東京女子大学 1名 文教大学 1名 関西学院大学 1名 北里大学 1名 共立女子大学 1名 昭和薬科大学 1名 東京農業大学 2名 自治医科大学 1名 東京理科大学 1名 法政大学 2名 慶應義塾大学 1名 成城大学 1名 明治学院大学 3名 聖徳大学 1名 中央大学 3名 つくば国際大学 1名 帝京大学 1名 成蹊大学 1名 明治大学 2名 国際医療福祉大学 4名 東京家政大学 3名 東京電機大学 1名 常磐大学 2名 日本体育大学 2名 日本大学 1名
---	---

主な大学合格者数

(年度は入試年度です。)

(主な国立大学)

大学名	R3年度	R2年度	(令和元年)31年度	30年度	29年度
東北	0	1	0	1	1
山形	0	4	3	2	5
福島	5	6	8	2	3
茨城	24	20	24	26	20
筑波	4	5	4	5	3
宇都宮	15	13	7	12	17
群馬	4	7	3	2	5
埼玉	6	9	15	5	6
千葉	3	1	1	2	0
東京	0	0	1	0	0
一橋	0	0	0	0	0
東京工業	0	1	0	0	0
東京学芸	0	0	2	1	0
横浜国立	1	0	0	0	1
その他	11	5	8	9	5
国立大計	73	72	76	67	66

(主な私立大学)

大学名	R3年度	R2年度	(令和元年)31年度	30年度	29年度
国際医療福祉	12	17	14	15	10
獨協	21	17	8	12	15
文教	17	16	10	25	13
青山学院	3	3	0	0	0
大妻女子	2	4	1	9	7
北里	5	2	7	2	1
慶應	1	1	1	2	1
國學院	1	3	5	3	0
駒澤	7	5	8	16	8
芝浦工業		4	10	4	12
上智		0	0	0	0
専修	13	7	5	3	7
中央		3	3	5	5
津田塾		0	2	0	1
東京女子		1	2	5	3
東京薬科		0	1	0	0
東京理科		2	4	1	4
東洋		31	47	49	57
日本		38	22	14	30
日本女子		0	3	0	0
法政		7	5	6	13
東京都		0	1	1	4
明治		4	3	4	2
明治学院		5	5	3	7
立教		4	3	1	5
早稲田		1	6	0	1
その他		327	270	325	377
私立大計	544	502	446	505	583

(主な公立大学)

大学名	R3年度	R2年度	(令和元年)31年度	30年度	29年度
高崎経済	4	1	6	11	10
県立医療	2	5	2	1	2
首都大東京	0	0	1	0	1
横浜市立	0	0	1	0	1
その他	11	20	14	14	22
公立大計	17	26	24	26	36

進路決定先人数

年 度	国公立大	私立大	短期大学	専門学校	就 職	未定・他	卒業者数
R 3	87	156	0	12	2	16	273
R 2	77	172	4	3	1	19	276
3 1	84	146	2	13	1	27	273
3 0	83	152	1	6	1	29	272
2 9	82	162	2	8	5	16	275
2 8	87	156	4	5	1	18	271

2022年度大学入試センター試験平均点

科 目	国 語	世界史B	日本史B	地 理 B	現代社会	倫理政経	数 I A	数 II B	物理基礎	化学基礎
本校平均	106.8	71.9	52.0	57.8	61.7	64.0	33.6	38.4	26.7	29.3
全国平均	110.3	65.8	52.8	59.0	60.8	69.7	38.0	43.1	30.4	27.7

科 目	生物基礎	地学基礎	物 理	化 学	生 物	英リーディング	英リスニング
本校平均	21.3	32.6	51.0	33.7	44.2	59.8	59.2
全国平均	23.9	35.5	60.7	47.6	48.8	61.8	59.5

・全国平均は中間発表のものです。

学 校 生 活



進路講演会（二年）



芸術鑑賞会（一年）



学年行事（3学年）



修学旅行



イングリッシュスタディ
（附属中）



五校連携（附属中）



進路講演会（三年）



野球壮行会



生徒会本部役員任命式



英語研修



入学式



校外学習（附属中）





令和3年度 七曜祭

一日目



二日目

硬式テニス部

- 1 僕たちは、心身の向上と県大会出場を目指して日々練習に励んでいます。
- 2 二年生八名
- 3 一年生十一名
- 4 県西公園 学校コート

- 3 水・木・土・日

ライフル射撃部

- 1 平日は学校、休日は県営射撃場で活動しながら、関東・全国を目指しています。
- 2 二年生三名 一年生三名
- 3 旧給食室 茨城県営ライフル射撃場
- 4 月曜日以外

陸上部

- 1 一つ一つの練習に目標をもって取り組み、部員全員が県大会に出場することです。
- 2 一三名 中学生
- 3 ハンドボールコートの横 県西公園 河川敷
- 4 日曜日以外

バドミントン部

- 1 男女共に県大会出場・ベスト16を目指し、日々練習に励んでいます。
- 2 二十七名
- 3 体育館
- 4 月曜から木曜・土曜日

- 2 二十七名
- 3 体育館
- 4 月曜から木曜・土曜日



ダンス部

- 1 観客の方々に皆さんの笑顔と元気を届けることを目標に日々練習に励んでいます。
- 2 二年生八名
- 3 一年生十八名
- 4 毎週火・水・金・土

- 3 プール跡 紫西会館

男子バレーボール部

- 1 全員で楽しんで部活をして、県大会出場を目指しています。
- 2 選手八名
- 3 マネージャー二名
- 4 基本月曜日以外

女子バレーボール部

- 1 県西優勝・県ベスト8を目標に全員が目標をもって日々の練習に励んでいます。
- 2 選手十四名
- 3 マネージャー一名
- 4 月曜日以外

スキー部

- 1 インターハイ、国体に出場することを目標に頑張っています。
- 2 四名
- 3 それぞれのスキー場
- 4 冬の期間

- 2 四名
- 3 それぞれのスキー場
- 4 冬の期間



男子ソフトテニス部

- 1 礼儀を大切に、仲間と協力してみんなで県の賞状をもらう。
- 2 二年生十名 一年生四名
- 3 テニスコート
- 4 基本月曜日以外

女子ソフトテニス部

- 1 個人、団体県大会出場を目標に、一球一球を大切に、日々の練習を頑張っています。
- 2 七名
- 3 下館一高テニスコート
- 4 月曜日以外

水泳部

- 1 大会でベストが出るように各自の練習に励んでいます。
- 2 一年生二名 二年生三名
- 3 各ライミングスクール
- 4 火・水・木・金・土・日

登山部

- 1 三千メートル級の山に全員で登頂する。
- 2 一年六名 二年生三名
- 3 物理室(ミーティング)
- 4 土・日曜日の、月に二・三回

- 2 一年六名 二年生三名
- 3 物理室(ミーティング)
- 4 土・日曜日の、月に二・三回



紫西会報

卓球部

- 1 部員全員が県大会出場を目標に毎日練習に励んでいます。
- 2 二年生五名 一年生十名
- 3 卓球場（旧給食室）
- 4 火曜日・日曜日

- 1 一人だからこその練習量の多さを生かし、試合を意識した練習をしています。
- 2 一名
- 3 ハンドボールコート
- 4 月曜と土曜 日曜休み

ハンドボール部

- 1 ALIとの交流や英語の絵本の多読を通して、楽しく活動しています。
- 2 二年生二名 中学生四名
- 3 多目的室
- 4 毎週火・金曜日

英語部

- 1 部員同士で互いの作品を批評し、各コンクールや大会に向けて切磋琢磨していきます。
- 2 高校生四名
- 3 中学生十六名
- 4 附属中二年生教室

- 1 夏の野球応援や、学校と地域の行事でたくさんの人を笑顔にできるように頑張ります。
- 2 二年生六名 一年生六名
- 3 体育館ステージ 中庭
- 4 火曜日、木曜日、金曜日

吹奏楽部

- 1 夏のコンクールで県大会入賞を目標に日々練習に励んでいます。
- 2 二年生一九名 一年生一五名 中学生六名
- 3 音楽室
- 4 平日、土曜日

- 1 一人でも多くの人の役に立ち、社会貢献をする。
- 2 十五名
- 3 物理地学講義室
- 4 毎週月曜日の昼休み

文芸部

- 1 和敬清寂の教えを日常の様々な場所で思い出し考えて行動するよう心掛けること。
- 2 三年生四名 二年生四名 一年生五名
- 3 茶道室
- 4 毎週火曜日

- 1 美大進学、作品展への出品を目標に、美術の基礎、基本を学び、技術を向上させる。
- 2 高校生九名 中学生三名
- 3 特別棟二階西側突き当たり美術室
- 4 平日いつでも

チアリーディング部

- 1 茨城美術展覧会などの作品展に向けて、入選を目標に日々精進しています。
- 2 特別棟三階図書室
- 3 毎週水曜日（それ以外は自主練習）
- 4 毎週水曜日

- 1 理科に関する気になったことを実験し、良い結果を得られるように励んでいます。
- 2 二年生三名 一年生三名
- 3 化学室
- 4 毎週火曜日

書道部

- 1 夏のコンクールで県大会入賞を目標に日々練習に励んでいます。
- 2 二年生一九名 一年生一五名 中学生六名
- 3 音楽室
- 4 平日、土曜日

- 1 和敬清寂の教えを日常の様々な場所で思い出し考えて行動するよう心掛けること。
- 2 三年生四名 二年生四名 一年生五名
- 3 茶道室
- 4 毎週火曜日

吹奏楽部

- 1 夏のコンクールで県大会入賞を目標に日々練習に励んでいます。
- 2 二年生一九名 一年生一五名 中学生六名
- 3 音楽室
- 4 平日、土曜日

- 1 一人でも多くの人の役に立ち、社会貢献をする。
- 2 十五名
- 3 物理地学講義室
- 4 毎週月曜日の昼休み

茶道部

- 1 和敬清寂の教えを日常の様々な場所で思い出し考えて行動するよう心掛けること。
- 2 三年生四名 二年生四名 一年生五名
- 3 茶道室
- 4 毎週火曜日

- 1 美大進学、作品展への出品を目標に、美術の基礎、基本を学び、技術を向上させる。
- 2 高校生九名 中学生三名
- 3 特別棟二階西側突き当たり美術室
- 4 平日いつでも

美術部

- 1 理科に関する気になったことを実験し、良い結果を得られるように励んでいます。
- 2 二年生三名 一年生三名
- 3 化学室
- 4 毎週火曜日

- 1 夏のコンクールで県大会入賞を目標に日々練習に励んでいます。
- 2 二年生一九名 一年生一五名 中学生六名
- 3 音楽室
- 4 平日、土曜日

理科部

- 1 和敬清寂の教えを日常の様々な場所で思い出し考えて行動するよう心掛けること。
- 2 三年生四名 二年生四名 一年生五名
- 3 茶道室
- 4 毎週火曜日

- 1 夏のコンクールで県大会入賞を目標に日々練習に励んでいます。
- 2 二年生一九名 一年生一五名 中学生六名
- 3 音楽室
- 4 平日、土曜日

ストリングオーケストラ部

- 1 夏のコンクールで県大会入賞を目標に日々練習に励んでいます。
- 2 二年生一九名 一年生一五名 中学生六名
- 3 音楽室
- 4 平日、土曜日

- 1 一人でも多くの人の役に立ち、社会貢献をする。
- 2 十五名
- 3 物理地学講義室
- 4 毎週月曜日の昼休み

- 1 和敬清寂の教えを日常の様々な場所で思い出し考えて行動するよう心掛けること。
- 2 三年生四名 二年生四名 一年生五名
- 3 茶道室
- 4 毎週火曜日



写真部

- 1 私たち写真部は楽しく、より良い写真が撮れるように日々活動しています。
- 2 高校六名
- 3 中学生十七名
- 4 行事毎



放送部

- 1 全国大会出場を目標に、発声や映像技術の向上に日々精進しています。
- 2 二年生三名
- 3 放送室
- 4 平日月々金



軽音楽部

- 1 バンドごとのペースで楽しく活動しています。楽器未経験者でも大歓迎です。
- 2 二十人
- 3 保健室前部室棟 音楽室
- 4 バンドごとに決めた曜日



職員異動

令和三年度

一 退職者

- 教諭(社会) 深谷 祐
教諭(理科) 阿部 友樹
教諭(国語) 皆川 聡
講師(数学) 倉持 雄大
事務 栗原 直美

二 転出者

- 教頭(数学) 木村 厚夫
(校長 下館西中へ)
教諭(体育) 青木 一芳
(教頭 石岡一へ)
教諭(理科) 木村 裕
(竹園へ)
教諭(英語) 青木 久幸
(土浦二へ)
教諭(英語) 酒寄 綾子
(八千代へ)
教諭(数学) 山田 貴大
(古河中等へ)
教諭(数学) 穴澤 奏未
(本校附属中へ)
事務 北川 健一
(鬼怒商へ)
講師(情報) 萩原 晃
(下館二へ)

三 転入者

- 教頭(社会) 谷島 敏浩
(下館中より)
教諭(数学) 酒井 哲
(友部より)
教諭(英語) 大塚 毅
(竹園より)
教諭(理科) 日向 岳王
(行政より)
教諭(体育) 長沢 孝
(結城二より)
教諭(数学) 古谷 英雄
(水海道二より)
教諭(社会) 齋藤 喜博
(竹園より)
教諭(社会) 竹江 信之
(太田西山より)
教諭(数学) 藤田 宏美
(八千代より)
教諭(体育) 鳩見 翔太
(下館西中より)
教諭(数学) 穴澤 奏未
(本校高校より)
事務 榮永 純子
(坂東総合より)
事務 宮山 朋子
(行政より)

同窓会学年幹事

令和三年度

- 一組 古宇田春希
二組 宮崎 寧音
三組 杉山 港汰
四組 熊倉 彩華
五組 小林 潤也
六組 田崎 彩名
七組 中山 晃輔
八組 華花 知宙
九組 宮坂 琴美
十組 堀 優珠
十一組 高橋 大翔
十二組 亀形 結
十三組 武内 泰生
十四組 大川 泰生



編集後記

今回初めて編集の仕事に携わるにあたり、お忙しい中、快く寄稿下さった同窓会長の林様をはじめ、諸先生方、生徒諸君にこの場を借りて御礼申し上げます。ご協力ありがとうございました。

さて、同窓会長の林様の御挨拶にありますように、我が母校も令和5年(2023年)に創立百周年事業を控えております。百周年を見据え、多くの方々の協力を得、私自身も同窓生として尽力していく所存です。

来年度は、二年前に開講した附属中学校も三学年がそろそろ完成年度を迎えます。新たな下館一高の伝統のページを紡ぐという自覚をもち、微力ながら業務に邁進していきたいと思います。

中原吉朋 記

紫西会報では、下館一高を卒業された方の記事をお待ちしております。クラス会の開催報告など、お便り、FAX、電子メールでお寄せください。学校代表メールアドレス kotoshi.inodate@ibk.ed.jp

編集委員 中原 吉朋

星野 雅一

写真提供 鈴木写真館